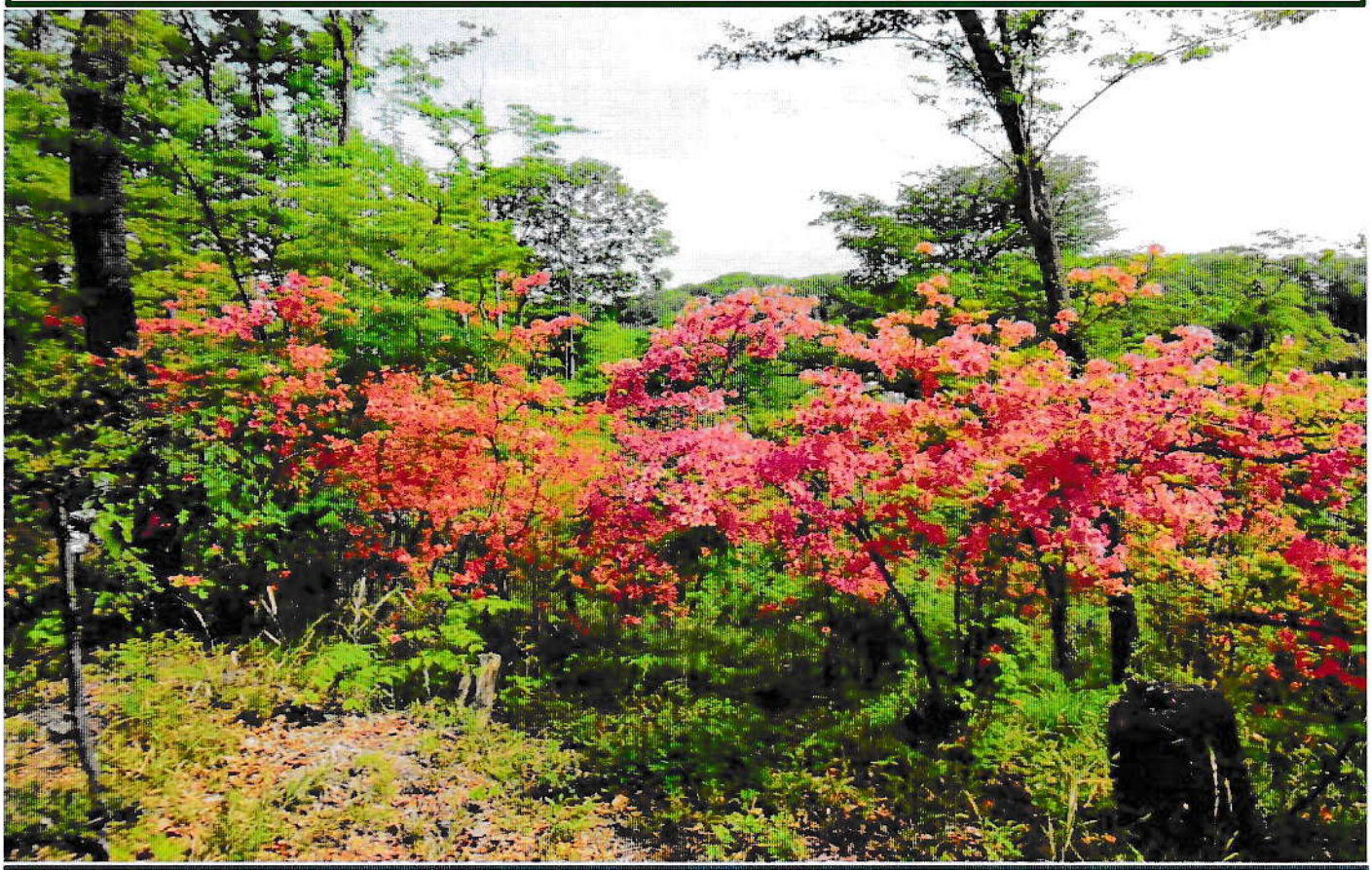
2021年4月吉日発行

宇津貫みどりの会 第98号

宇津貫みどりの会
連絡先　城所幸子
TEL/FAX 042-636-2466



宇津貫緑地へ行こう！「春の里山散策」

日　　時：４月２５日(日)　１０時～１２時　(雨天中止)

場　　所：宇津貫緑地　　(普段は入れない緑地をご案内します)
費　　用：無料
募集人数　：先着３０名　　＊マスク着用、歩きやすい靴でお越しください。
申し込み　：不要　　＊直接現地においでください。
　　少人数のグループごとに時間差でご案内します。

主催：宇津貫みどりの会　共催：ニュータウンアーバンビレッジパーク

緊急事態宣言等が発令された場合、中止といたします。その時は、本会のホームページでお知らせします。

会員募集中！

宇津貫みどりの会に参加して、里山の保全に汗を流してみませんか。月3、4回山の手入れを行っています。自然観察や健康増進にいかがですか。とても楽しい会ですよ!!

ご連絡は、城所　042－636－2466まで

当会のホームページをご覧ください。
http://utsunukimidori.ie-yasu.com/

又は、QRコード

宇津貫緑地のナラ枯

今年2月になって、宇津貫緑地の尾根道を歩いた人は、『明るくなった！』と気付くと思います。冬で落葉樹の葉が落ちただけでなく、周囲の山々も見通せるほど視界が良くなり、空が広くなったと感ずると思います。そして、道幅も広くなり、観光地のハイキングコースのような錯覚を覚える尾根道に、所々に横たわるコナラの大木を目にすると、ただ事ではないと我に返ることと思います。（写真1参照）

写真1：明るい尾根道
（両側に切られた大木がベンチのように並ぶ）

ところで、宇津貫緑地のコナラの大木をこれほど多く切らなければならなかった原因は何でしょうか？答えは、『ナラ枯れ病』です。

ナラ枯れは、カシノナガキクイムシという5mmほどの甲虫がナラ菌という病原菌を体に付けて木に穴をあけて潜り込み、この菌により木の樹液の流動が止まり一気に枯れてしまう伝染病です。このナラ枯れは昔から日本にある伝染病で、コナラ、ミズナラなど、シイ・カシ類に、国内のあちこちで被害が出ていました。そして、東京都では、都市部の公園、多摩地区の山林など2019年から被害が出始めました。

宇津貫緑地では、2020年夏に尾根道脇にて、根本に大量の木くずが積もっているコナラの木が何本も散見されました。しばらく、『何だろう？』と不思議に思っていました。その後、ナラ枯れの情報を聞き、宇津貫緑地の症状と結びつきました。そして、9月3日に宇津貫緑地の散策路の周りを調査したところ、約30本に被害が出ていることが分かりました。さらに、1本の木から株分けしている木もあるので、幹の数としてはその約2倍になりました。

ナラ枯れの対処方法としては、伐採して焼却や穿孔部に薬剤注入などいろいろあるようですが、費用や手間の割に決定打はなく、現実的には伐採してその場に放置し、数年で被害が下火になるのを待つのが実情のようです。

宇津貫緑地においても、指定管理者に連絡し、対応策として年明けに伐採してもらいました。

写真2：被害を受けたコナラ（アセビの道）

写真3：伐採されたコナラ（アセビの道）

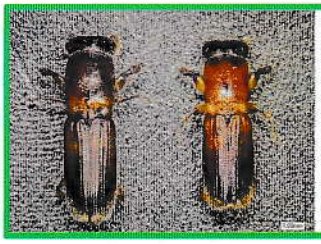
さて、コナラの大木が同時に何本も枯れるのですから、森にとっては大変な事態なのです。しかし、専門家によれば、被害を受ける木は、大木（老木）が多く、若い木に被害が少ないために、森を若返りさせる促進剤として働いているという専門家もいます。確かに宇津貫緑地のコナラは、みなみ野シティが開発される前に生えたものであり、樹齢30年以上たっています。（何本かの切り株の年輪を数えると、大体直径40cmで70年、30cmで50年、20cmで30年でした）

ナラ枯れがこのまま拡がると、コナラが全滅しかねません。今後を考えると、これを契機に、若い木を育て、元気な森に更新していく策を考えていく必要があります。どんな森にするか、みんなで考えていきたいと思います。ちなみに、その第一歩として、昨年落下して芽吹きした種を、ログハウス横の苗床で育て始めています。

最後に、皆さんに注意していただきたいことがあります。今年も同様な被害が発生すると思います。

夏になり根本に木くずが積もっている木が、先のカミキリムシに穴をあけられたものであり、樹液がでているものもあるはずです。その樹液にスズメバチが寄っていることがありますので、不用意に近づかないようにしてください。

参考文献：「ナラ枯れの被害をどう減らすか」 森林総合研究所
https://www.ffpri.affrc.go.jp/fsm/research/pubs/documents/nara-fsm_201202.pdf



カシノナガキクイムシ：
体長5mmほどの、ナガキクイムシ科の昆虫。アフリカおよび東南アジアを起源とし、熱帯・亜熱帯地域に多く生息する。日本では、3属19種が知られている。

これまでの主な活動 2021年1月～3月

1月10日

恒例の山の神詣り。
会長の祝詞読み上げで、今年一年の無事故を祈願します。

3月5日

あきる野市にある「横入沢保全地域」を、会員7名が訪れました。地元の方の案内で、よく整備された里山を見学しました。

1月10日

腐葉土をつくるための落ち葉掃きです。緑地の広い範囲で、2月1日まで、3回行いました。

3月14日

シイタケの駒打ちを行いました。
大きくて、おいしいシイタケができるようにと、心を込めて菌を打ち込みました。

2月11日

ナラ枯れの被害にあったクヌギやコナラを、指定管理者に伐採してもらいました。緑地の若返りが課題です。

3月14日

咲き終わったフクジュソウを株分けしました。来年は、もっと多くのフクジュソウが目を楽しませてくれることでしょう。

2月20日

これまであまり手入れのできなかった、スギ・ヒノキ林下を整備しました。
埋もれた道を復活させる予定です。

3月20日

線路脇草地に、コナラの実生苗を7本移植しました。丈夫に育ってくれることでしょう。

【編集後記】
2021年という新しい年を迎えました。昨年から続く新型コロナウィルスに、会員の誰一人感染することがないのは、何よりの幸いです。今年度も、会員すべての方が、健康に過ごせるよう祈っています。